

平成29年度の教育活動等に対する学校評価書

平成30年6月10日

学校法人志田学園 認定こども園鈴川幼稚園長 志田直正
 学校関係者評価委員長 外山未紀

1 幼稚園の教育目標みらい

健やかなところとからだ

- (1) 健やかなからだ・・・からだの調和的発達
- (2) 思いやりのところ・・・仲間意識・協調心
- (3) 意欲的なところ・・・自主的なところ

2 本年度の重点目標

- (1) 教員の資質の向上と充実を図り、その為の環境づくりに努める
- (2) 園と家庭の連携、地域に開かれた園を目指し、教育効果の向上に努める
- (3) 恵まれた自然環境を活用した教育の展開に努める
- (4) 小規模幼稚園の特徴を生かして、園児の個性をのばす教育に努める

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価 結果

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
保育の計画性・保育のあり方及び幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の自己研鑽と相互のコミュニケーション ・健康と安全への配慮 ・幼児のみと理解 ・指導との関わり 	B	「教育要領の理解」を始め「教育課程の編成」「指導計画の作成」等は、教育の現場経験を重ねる中で理解度が深まる傾向が見られる。 小規模な園の特徴を生かし、教職員全員が園児一人ひとりの健康状態や発達、園児同士のかかわり方に注意を払うと共に、教員同士も連携しながら、学年を超えて園児全体に目を向け取り組んでいる。	A	教員は、小規模幼稚園の特徴を生かし、園児一人ひとりの個性を把握・理解して園児の個性に応じた教育を行っている。 ごく自然に展開し、形成される異年齢間の交流や人間関係を保育の中で大切にしている。 幼稚園教育の要である「保育」（保育計画・保育内容・保育への対応等）に関しては、様々な意見が出されたが、全体的に本園の教育、保育に対する委員は評価は、高いといえる。

			おやま教職員相互のコミュニケーションと交流の機会を持つための環境づくりが求められる。		
教師としての資質や能力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家としての能力・良識・義務 ・ まわりを感じ取れる感性アンテナ 	B	<p>専門家としての能力等は、保育経験を重ねることによって、自己評価は高まる傾向にある。あわせそのための環境づくりに努めていくことが大切である。</p> <p>まわりを感じ取れる感性と、特に自然や社会の出来事、地域のことへの興味、関心は、幼稚園での経験を積むことで自己評価に反映してくる。</p> <p>あ園や園児を包む環境への関心を高めるための配慮と努力が求められる。</p>	A	<p>幼稚園教員としての資質能力は、どの委員も、これを高く評価している。幼稚園の外との関係に広く目を向けている点についても教員それぞれの経験が評価されている。また、園児と一緒に体を動かし、園児一人ひとりの声に耳を傾け、思いを良く受け止めている点も評価されている。</p> <p>これらの点についてさらに向上させていくための環境づくりにこれからも努めていきたい。</p>
保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の発信と受信 ・ 協力と支援 ・ 守秘義務の順守 ・ 対応上のマナー・常識 ・ クレームへの対処の仕方 	A	<p>全ての項目について教員各々の自己評価は高い。</p> <p>保護者への対応については本園の小規模幼稚園としての特徴を教員各自が十分認識し実践している。これからもこれらの対応を大切にしていきたい。</p> <p>教員が保護者の要求を吸い上げ、また、園児一人ひとりに関する課題や対策を共有できる「ひとことコーナー」が保護者への対応に活用されている。</p>	A	<p>園児を中心に常に保護者と園が密接な連携を保っている点が本園の特色として指摘され、これを高く評価する委員からの発言が多く聞かれた。</p> <p>園と家庭が一体となって進める教育は、幼児期の教育には極めて重要であり、この点をこれからも重視し、本園の特色として一層推進していきたい。</p>

<p>地域の自然や社会との関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や社会との関わり ・地域開放や子育て支援のあり方 	<p>B</p>	<p>園全体としては、「地域の自然や社会との関わり」はかなり強いと各教員が自ら評価している。</p> <p>事実、地域の公園や海岸、園内の畑や樹木など自然環境に恵まれた園の特徴を教育の現場に積極的に取り入れて、活用している。また、地域の文化祭や催し、敬老会やボランティアへの参加、地元の中学生との家庭科の授業を通しての交流等を行っている。</p> <p>しかし、「地域開放や子育て支援のあり方」について「教職員全体で話し合っている」ことについて、教員の多くは、まだそこまで至っていないと認識している。</p>	<p>A</p>	<p>本園の恵まれた自然環境を園児の活動と教育に生かしている点に委員は強い関心を持ち、この点に対して高い評価が向けられている。</p> <p>園内菜園で収穫した作物を食材とする「食育」については、高い関心と評価があった。</p> <p>また、園の企画する地域の行事等への参加も幼児教育の立場から評価する声が多く聞かれた。</p>
<p>研修と研究について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性に関する研修・研究 ・遊具・教材に関する研修・研究 ・園内の環境に関する研修・研究 ・自らを高めるための学習 	<p>B</p>	<p>遊具・教材、園内の環境に関する研修・研究についての自己評価はかなり高く、教員各々が常に研鑽していることが強く感じられる。専門性に関する研修・研究も自己評価も高い水準にある。</p> <p>これをうけて、これからも研修・研究に対する環境づくりを進めていきたい。</p> <p>また、他の分野への研修・研究についても適切な環境づくりに励んでいきたい。</p>	<p>A</p>	<p>本園の教員がそれぞれに個性を発揮し、熱心に教育と研修に取り組んでいる態度に対し、また園児一人ひとりをよく観察して教育に当たっている姿勢を委員の各々は具体的に事例を提示しながら高く評価している。</p> <p>また、経験豊かな教員から多くを学びながら教育力を高めていく前向きな姿勢にも関心が向けられた。また小規模幼稚園であるがゆえに、数少ない教員同士は、互いに連携し協力しながら教育と研鑽に励んでいる態度にも注目された。</p>

